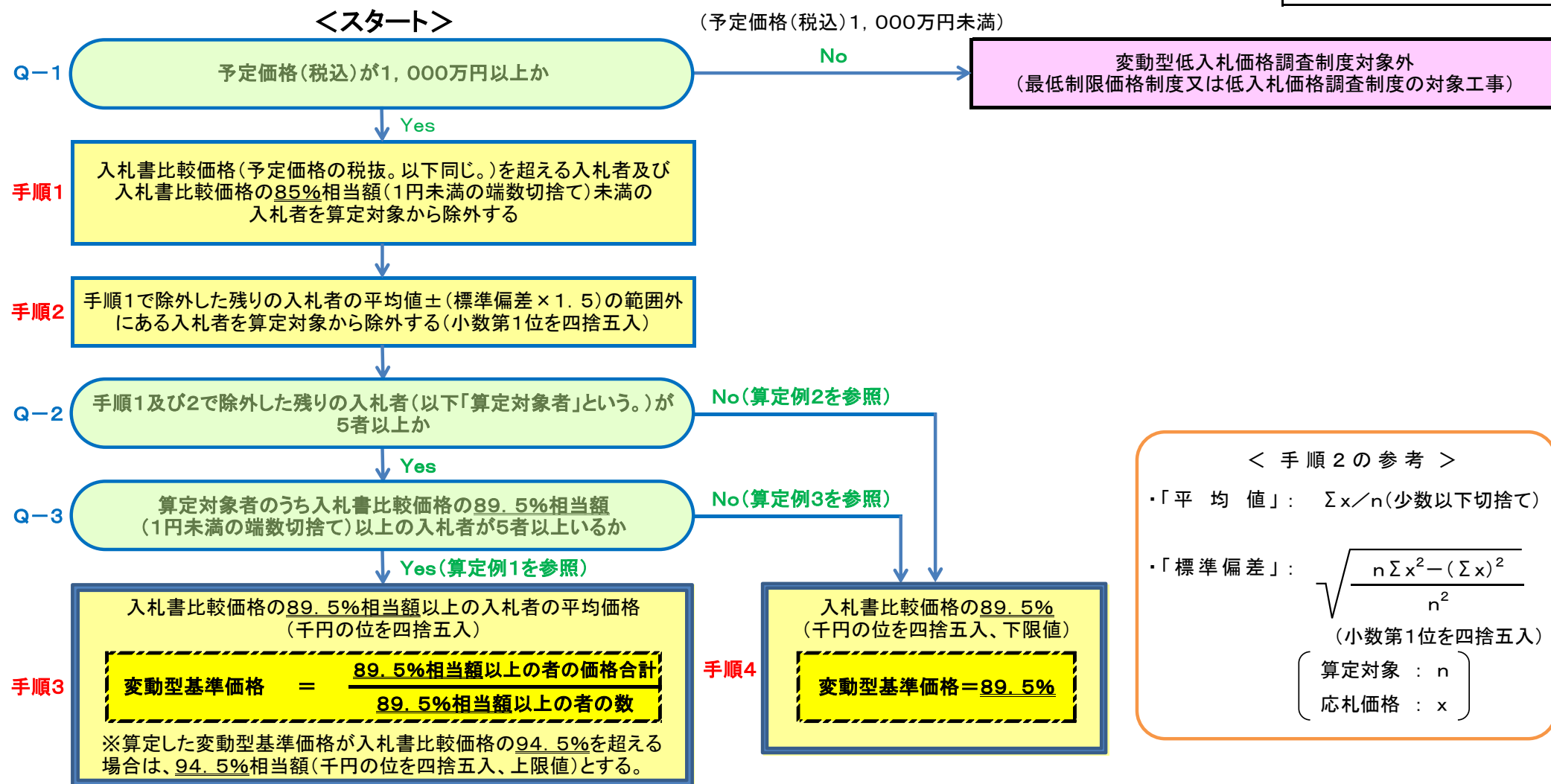


建設工事における変動型基準価格算定フロー

2019/9/1以降の公告～



※解体工事については、予定価格にかかわらず変動型低入札価格調査制度対象外です。

※調査対象入札のうち契約管財課長等が必要と認めるものについては、要綱による事情聴取等を行わず、上記の変動型基準価格を下回る入札者を失格とすることができます。

※契約管財課長等が特に必要と認めるものについては、上限値及び下限値を入札書比較価格の75%～92%の範囲内とすることができます。

※第1回目の入札において、変動型基準価格を下回り失格となった者は、再度入札に参加できません。

※再度入札(見積合わせ)の場合は、その入札(見積)結果に基づき変動型基準価格をその都度算定します。

※事後審査型一般競争入札(総合評価案件を含む。)の落札候補者について、資格確認の結果、「入札参加資格なし」となった場合は、当該落札候補者の行った入札は無効とし、改めて変動型基準価格を算定したうえで落札候補者を決定し、資格確認を行います。この場合、当初、失格であった者が落札候補者となる場合があります。

算 定 例 1

1 入札状況等

入札者	第1回入札(円)	備 考
A	42,300,000	算定対象から除外… 手順1-②参照
B	43,100,000	算定対象から除外… Q-3参照
C	44,800,000	算定対象者… Q-2参照 算定対象者のうち89.5%相当額以上の者… Q-3参照 変動型基準価格(46,370,000円) … 手順3参照
D	45,000,000	
E	46,240,000	
F	46,300,000	
G	49,500,000	
H	50,000,000	算定対象から除外… 手順2-①参照
I	55,000,000	算定対象から除外… 手順1-①参照

※本件は、予定価格(税込)を5,500万円とした入札例(仮)です。

<参考>標準偏差の計算方法

標準偏差は、エクセル関数(STDEVP関数)で求めることができます。

2 算定の手順

手順等	算 定 内 容
Q-1	予定価格(税込)が1,000万円以上か ⇒予定価格(税込)は5,500万円なので「Yes」へ進む
手順1	・入札書比較価格は、50,000,000 円 ・入札書比較価格の85%相当額は、42,500,000 円 ① ⇒入札者Iを算定対象から除外(入札書比較価格超過の応札) ② ⇒入札者Aを算定対象から除外(85%相当額未満の応札)
手順2	手順1で除外した残りの入札者(入札者B~H)について、 ・平均値は、46,420,000 円 ・標準偏差は、2,330,322 円 ・平均値+(標準偏差×1.5)は、49,915,483 円 ・平均値-(標準偏差×1.5)は、42,924,517 円 ① ⇒入札者Hを算定対象から除外(平均値+(標準偏差×1.5)超過の応札) ② ⇒(平均値-(標準偏差×1.5))未満の入札者は無し
Q-2	手順1及び2で除外した残りの入札者(算定対象者)が5人以上か ⇒算定対象者は入札者B~Gの6者なので「Yes」へ進む
Q-3	算定対象者のうち入札書比較価格の89.5%相当額以上の入札者が5者以上か ・入札書比較価格の89.5%相当額は、44,750,000 円 ⇒算定対象者は入札者C~Gの5者(入札者Bは、算定対象者から除外(入札書比較価格の89.5%相当額未満の応札)なので「Yes」へ進む
手順3	算定対象者(入札者C~G)について、 ・89.5%相当額以上の者の価格合計は、231,840,000 円 ・89.5%相当額以上の者の数は、5 者 ⇒変動型基準価格は、46,370,000 円 ※この結果は、入札書比較価格の92.74%で、94.5%(上限値)を超えない ⇒A~Fは、変動型基準価格未満となる。

算 定 例 2

1 入札状況等

入札者	第1回入札(円)	備 考
A	25,100,000	算定対象から除外… 手順1－②参照
B	26,200,000	算定対象から除外… 手順2－②参照
C	26,700,000	<div> <div> <div>変動型基準価格(26,850,000円) …手順4参照</div> <div>算定対象者…Q－2参照</div> </div> </div>
D	27,500,000	
E	27,750,000	
F	28,000,000	
G	30,100,000	算定対象から除外… 手順1－①参照
H	30,200,000	
I	30,500,000	

※本件は、予定価格(税込)を3,300万円とした入札例(仮)です。

2 算定の手順

手順等	算 定 内 容
Q－1	予定価格(税込)が1,000万円以上か ⇒予定価格(税込)は3,300万円なので「Yes」へ進む
手順1	・入札書比較価格は、30,000,000 円 ・入札書比較価格の85%相当額は、25,500,000 円 ① ⇒入札者G～Iを算定対象から除外(入札書比較価格超過の応札) ② ⇒入札者Aを算定対象から除外(85%相当額未満の応札)
手順2	手順1で除外した残りの入札者(入札者B～F)について、 ・平均値は、27,230,000 円 ・標準偏差は、674,981 円 ・平均値＋(標準偏差×1.5)は、28,242,472 円 ・平均値－(標準偏差×1.5)は、26,217,529 円 ① ⇒(平均値＋(標準偏差×1.5))超過の入札者は無し ② ⇒入札者Bを算定対象から除外(平均値－(標準偏差×1.5)未満の応札)
Q－2	手順1及び2で除外した残りの入札者(算定対象者)が5人以上か ⇒算定対象者は入札者C～Fの4者なので「No」へ進む
手順4	入札書比較価格について、 ・入札書比較価格の89.5%は、26,850,000 円 ⇒変動型基準価格は、26,850,000 円 ⇒A～Cは、変動型基準価格未満となる。

<参考>標準偏差の計算方法

標準偏差は、エクセル関数(STDEVP関数)で求めることができます。

算 定 例 3

1 入札状況等

入札者	第1回入札(円)	備 考
A	33,900,000	算定対象から除外・・・ 手順1－②参照
B	34,900,000	算定対象から除外・・・ Q－3参照
C	35,500,000	
D	37,100,000	
E	38,800,000	変動型基準価格(35,800,000円) ・・・ 手順4参照
F	39,600,000	算定対象者・・・ Q－2参照
G	40,100,000	算定対象者のうち89.5%相当額 以上の者・・・ Q－3参照
H	40,200,000	
I	40,300,000	

※本件は、予定価格(税込)を4,400万円とした入札例(仮)です。

<参考>標準偏差の計算方法

標準偏差は、エクセル関数(STDEVP関数)で求めることができます。

2 算定の手順

手順等	算 定 内 容
Q－1	予定価格(税込)が1,000万円以上か ⇒予定価格(税込)は4,400万円なので「Yes」へ進む
手順1	・入札書比較価格は、40,000,000 円 ・入札書比較価格の85%相当額は、34,000,000 円 ① ⇒入札者G～Iを算定対象から除外(入札書比較価格超過の応札) ② ⇒入札者Aを算定対象から除外(85%相当額未満の応札)
手順2	手順1で除外した残りの入札者(入札者B～F)について、 ・平均値は、37,180,000 円 ・標準偏差は、1,817,031 円 ・平均値＋(標準偏差×1.5)は、39,905,547 円 ・平均値－(標準偏差×1.5)は、34,454,454 円 ① ⇒(平均値＋(標準偏差×1.5))超過の入札者は無し ② ⇒(平均値－(標準偏差×1.5))未満の入札者は無し
Q－2	手順1及び2で除外した残りの入札者(算定対象者)が5人以上か ⇒算定対象者は入札者B～Fの5者なので「Yes」へ進む
Q－3	算定対象者のうち入札書比較価格の89.5%相当額以上の入札者が5人以上か ・入札書比較価格の89.5%相当額は、35,800,000 円 ⇒算定対象者は入札者D～Fの3者(入札者B及びCは、算定対象者から除外(入札書比較価格の89.5%相当額未満の応札))なので「No」へ進む
手順4	入札書比較価格について、 ・入札書比較価格の89.5%は、35,800,000 円 ⇒変動型基準価格は、35,800,000 円 ⇒A～Cは、変動型基準価格未満となる。